

## 巻頭言

校長 横川 修

### 進取敢為でウェルビーイング

日課に「ウトウトタイム」を設定し、毎日10分の午睡をする本校の生徒及び教職員は快眠習慣を大切にしています。ウェルビーイングを目指してよりよく学び、よりよく働くためです。「ウトウトタイム」を通して、睡眠の不思議に迫る本校生は、休日の寝だめがもたらすソーシャル・ジェットラグ（社会的時差ぼけ）防止にも努めています。ソーシャル・ジェットラグとは、平日の寝不足を休日に取り戻そうと睡眠時間を長くしたり、朝寝をしたりすると体内リズムが乱れて、かえって次週の半ばまで疲労感を引きずってしまうという残念な状態です。これからも本校生には、世界中の多くの人々が人生100年時代を謳歌できるよう、睡眠の質、量、そしてリズムを大切にしたい快眠習慣づくりに資する課題研究を期待しています。

令和6年度は科学部地学班が7年越しで重ねてきた不知火現象に係る研究が大きな前進を遂げました。再現実験によるメカニズム解明に続き、海上での写真撮影に成功し、36年ぶりの快挙と報道され、多くの方と喜びを分かち合いました。クラウドファンディングで全国各地から御支援を賜るとともに、地元漁協の方への真夜中の漁船出港や観測機器設置の依頼に対して、「若者の夢をかなえてやりたい」と絶大な御協力を頂戴できたことが背景にあります。皆様の御厚情に厚く御礼申し上げます。

課題研究成果発表と多彩で多様な交流の機会として催した「UTO Well-Being 探究 Award 2024」で御講演をお願いしましたお二人からは若者に対する期待と熱いメッセージをいただきました。JAXA 社友 Koshoya2020 代表の柳川孝二先生は、自分の「宇宙」を押し広げる人生の面白さを、多様なチームメイトと力を合わせる楽しさを、熊本大学大学院先端機構フロンティアデータサイエンス化血研寄附講座特任助教の中村振一郎先生は、人間、この未知なるものの深さ、人工知能の先にある自然知能、学校やテストに答えがあっても、仕事や世界には、答えがあるかないかもわからないと語ってくださいました。

今から90年ほど前に、不知火研究の最前線にいらっしゃった宮西通可先生のお孫さんから地学班の生徒宛に頂戴した手紙の一節を紹介して、ウェルビーイングを目指す意義について改めて考えたいと思います。

家族にとって祖父は「不知火の人」で、それが誇りでもありました。宇土高等学校の皆様が、これからも郷土の自然や歴史を、最新の知識で、熱い心で受け継いでいかれますことと、皆様の研究が明るい未来に続く道になりますよう心よりお祈り申し上げます。

本校は、激動の時代にあっても変わらない科学する精神「進取敢為」を胸に、何度失敗を重ねても、「敢」の意味する、怯まず、挫けず、諦めずを体現し、謎に満ち溢れた宇宙を探究し続ける科学技術人財育成に努めて参る所存です。

結びに、御指導を賜ります文部科学省及び国立研究開発法人科学技術振興機構の皆様、SSH運営指導委員の方々、御支援御協力を賜ります研究教育機関、事業者、宇土市、及び熊本県教育委員会をはじめとするすべての関係者の皆様方に心からの敬意と感謝を申し上げます。今後も引き続き御指導御助言を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶といたします。